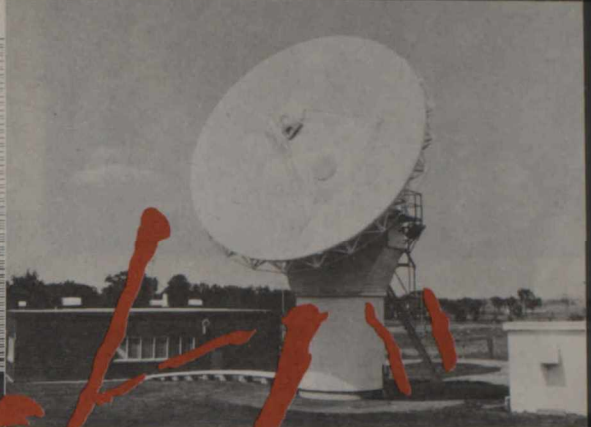
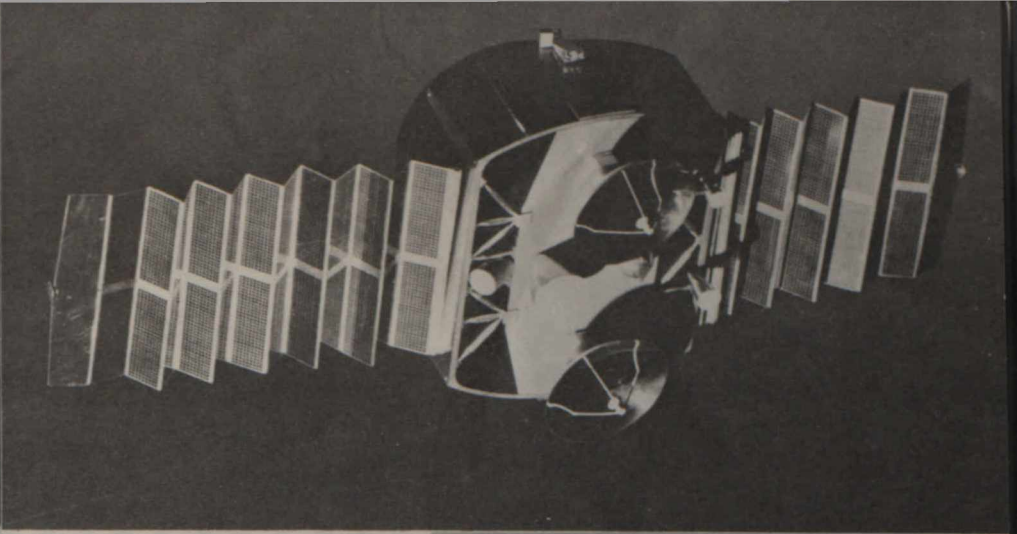
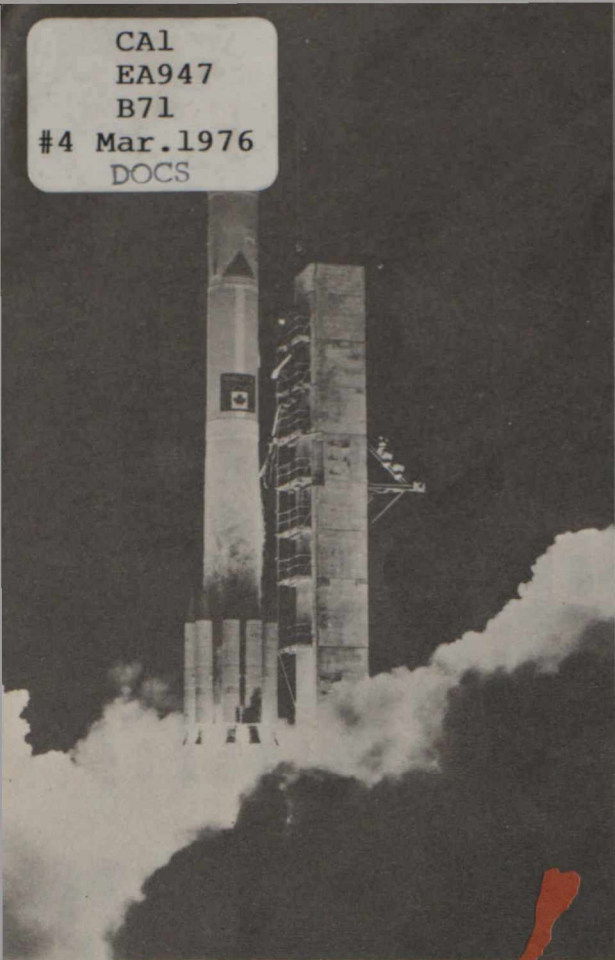


CA1
EA947
B71
#4 Mar. 1976
DOCS



カナダ

1976年3月
No.4

LIBRARY E A / BIBLIOTHÈQUE A E
3 5036 01029987 6

EXTERNAL AFFAIRS
AFFAIRES EXTERIEURES
OTTAWA
LIBRARY / BIBLIOTHÈQUE

- トピックス——2
- 大使館案内——2
- ランキン大使が着任——3
- カナダの歴史——4
- カナダ強力な通信技術衛星を打上げ——6
- トルドー首相、中南米三国を訪問——7
- カナダ経済、回復基調へ——7
- 「カナダと私」——紫沼喜久子——8
- トピックス——8

日加議員連盟を結成 相互理解の育成、拡大

日加両国の国会議員相互間の交流を図り、両国の政治、経済、文化、科学技術など広い分野で協調と相互理解を一層育成、拡大、そして充実させるため、三月十七日、衆参両議院の有志の間で「日加議員連盟」（会長・佐々木秀世衆議院議員）が結成された。これについて、カナダのルノオ・ラボワント上院議長およびジェームス・ジエローム下院議長は、連署で、「日加両国の関係がいよいよ深化発展している何よりの実証」である、との祝辞を寄せたほか、マケツカン外務大臣も連盟結成が相互の「協力と理解を深め、共有する民主主義の理想を追求する上に、極めて重要な役割を果たす」とのメッセージを送った。

なお、昨年六月、カナダ上下両院議長の招請で日本から衆参議員団が訪加し、議員交流計画について予備的懇談を行ったのに続いて、今年四月には、衆参両院議長の招きでカナダから国会議員団が訪日する予定である。

ベリング海で部許可 日本漁船のオヒョウ捕獲

日本は、ここ数年來減少の一途をたどっていたオヒョウの捕獲を防ぐため、東部ベリング海で厳しい自主制限を行ってきたが、先にバンクーバーで開かれた日米加漁業委員会第二十二回定例年次総会において、今年の一月一日から五月十五日までの期間中、同海の一部で日本漁船一組四隻の操業が実験的に認められることが決まった。実験の結果を

比較するため、一組の漁船の各一隻は通常のトロール網を用い、別の一隻は実験的な中層引き網を使用する。

ドイツエンターテインメント エリザベス女王から名誉勲位

カナダのドイツエンターテインメント元首相に、エリザベス女王から名誉勲位（コン



パニオン・オブ・オナー）が贈られた。これは特に国家に功労のあつた人に贈られるもので、これまでの受勲者は女王のほか、ウインストン・チャーチル、クレメント・アトリー両元英国首相、作家のグラハム・グリーン、彫刻家のヘンリー・ムーアなど、わずか六五人。

ドイツエンターテインメント元首相は、現在八十一才。カナダ連邦議会で野党議員として活躍している。

宇宙空間で重量分子を発見 生命存在の確認に光?

アミノ酸の中でも最も簡単なグリシンと同じ分子量（七五）をもつ分子シアンジアセチレンが、カナダの天文学者によって地球から三万光年も離れた射手座の一角で発見された。宇宙（星間）空間で発見された分子のうちでは質量が最も大きい（これまでの最大は二酸化硫黄で、分子量は六四）。

グリシンには宇宙（星間）空間に存在

する炭素、水素、ちつ素、酸素のすべての原子が含まれており、それと同じ質量のシアンジアセチレンが発見されたことで、アミノ酸も発見されるのではないかと期待が寄せられている。アミノ酸の存在が確認されると、宇宙生物の存在も可能性がでてくる。

韓国、アルゼンチンと輸出成約

カドウム型原子炉保障措置つき

カナダ政府は、今年一月、韓国、アルゼンチンの両国と、カナダ原子力公社が開発したカドウム型原子炉の輸出契約を結んだ。契約には、国際原子力機関（IAEA）が定めた当事者国双方による査察制度を含むセーフガード（安全保障）措置が決められ、非平和的または爆発目的への転用、カナダ政府の同意によらない第三国への転売などを、厳しく禁じている。

アニア映画作品を募集

カナダ国際アマチュア映画祭運営委員会は、今年度の作品募集要項を発表した。

募集作品は、シナリオ（フイクション）、ドキュメンタリー、自然科学、アニメーションの8ミリ、スーパー8ミリ、16ミリのフィルムで、長さは三〇分以下。サイレントも可。

応募締切りは五月一日、作品は五月十五日までに必着のこと。募集要項および応募用紙は、下の住所に請求されたし。

Canadian International Amateur Film Festival
P.O. Box 1740, Postal Station "R", 2 Laird Drive
Toronto, Ontario, Canada M4G 4A3

◆大使館案内◆

カナダ留学

カナダの大学に留学する場合、大学や専攻分野の選択が先決。カナダ大使館の図書館では、カナダ全国の大学を紹介した「Universities and Colleges of Canada」のほか、各大学の案内書を揃えて、一般の閲覧に供しているほか、情報文化部でも留学に関するいろいろな問合わせに対応している。

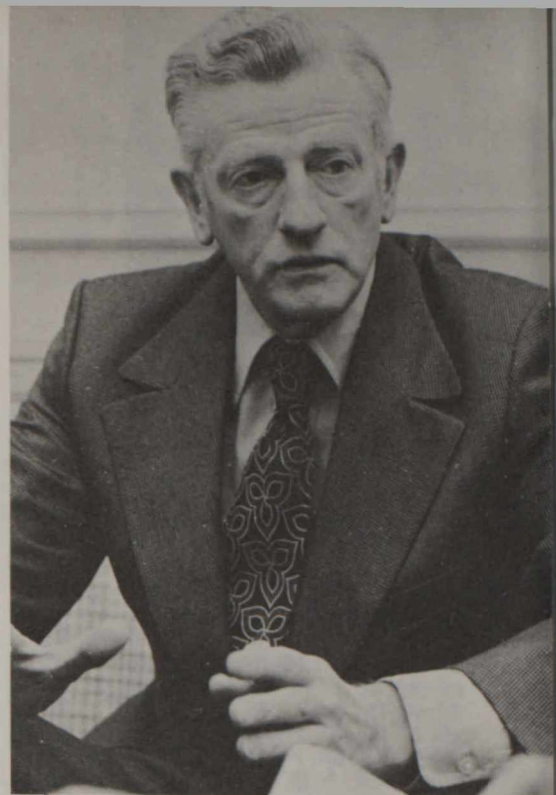
大学や専攻分野が決まると、各自手紙で志望校に願書を請求する。大学側は願書と、内申書や語学能力にもとづいて入学の可否を決める。願書提出の締切りは大学によって異なるが、一、二月が普通。入学が決まると、大使館の査証部（東京都港区八丁目五の二五タウンハウス一階）でビザの申請をするが、その際、入学許可証と留學生生活の資金的裏付けになる証明書が必要。大学または大学院の留學生は、アルバイトを含めて、一切就労が許されていないことを銘記すること。

奨学金については、大使館の図書館に備えた「Awards for Graduate Study and Research」や各大学の案内書が参考になる。一般的に言つて、外国留學生が対象になるのは修士課程以上で、学士課程の新入生が対象になることはほとんどない。

公費の奨学金には、カナダ外務省の文化交流計画によるものと、カナダ国立科学研究所が若い科学者やエンジニアを対象に支給する奨学金が上げられる。前者の応募資格は大学卒または大学院卒の日本人で、大使館（情報文化部）で書類受付けと一次選考を行う。今年の募集要項は夏頃発表される。後者に対する応募（締切りは一月十五日）は、National Research Council of Canada, Ottawa, Canada K1A 0R6 にある、Postdoctorate Fellowship Office か Research Associateship Office へ。

表紙の写真 カナダは一月十七日、世界一強力な通信技術衛星を打ち上げた。太陽電池をエネルギー源とするこの静止衛星は、通常の衛星より高い周波数を使うため、幅広い応用が期待される。記事は六ページ。

ランキン大使が着任 多角的日加関係の発展を強調



ロス・キャンベル前駐日カナダ大使の後任として二月に来日したブルース・I・ランキン新大使は、三月八日皇居で天皇陛下に信任状を奏呈、正式に就任した。ランキン大使は、各国で商務官や商務担当参事官を勤めたあと、駐ベネズエラ大使（兼ドミニカ共和国大使）ニューヨーク総領事などの要職にあった。また国連でも、経済社会理事会のカナダ代表や国連総会第二委員会（経済財政委員会）の一員として活躍するなど、通商・外交の経験は豊富。

ランキン大使は、日加関係がちょうど拡大期に入るときに着任した。日加貿易は、往復で年間約四十億ドルに達し、日本はカナダにとって米国に次ぐ世界第二の貿易相手国であり、日本にとってもカナダは天然資源などの重要な供給国。また、「第三の選択」と呼ばれるカナダの多角外交政策において、日本はカナダの経済以外の対外政策においても、ますます重要性をまわってきた。こうしたことを背景に、日加両国は一九七四年、「今後さらに政治、経済、文化、科学技術等、多岐にわたる分野で協力関係を育成、拡大し、かつ充実したものにすべく不断の努力を行い、もって日加関係の基盤を一層幅広く、かつ深みのあるものにする」ことに合意した。このことはその後再度確認され、昨年東京で開かれた第七回日加閣僚会議では、両国政府が産業協力、科学技術計画、投資、合併事業、資源エネルギーの共同開発——などの諸問題について一連の探求的な話し合いを行うことを決めた。

現在、日加間で、鉱物・エネルギー委員会、科学・技術委員会、農業・食糧委員会、住宅基準委員会などの担当者会議が逐次開かれ、また科学技術交流などに関するいろいろな協定もできている。

カナダとしては、日本との関係をただ単に貿易だけに限らず、その他の諸分野にまで広げ、そして深めたい意向で、これについてランキン大使は「日刊工業新聞」との会見で次のように語っている。

「この方面（文化、科学技術交流）の両国間の交流は現在始まったばかりと聞いていい。でも両国政府が百万ドルの基金を設立し、カナダ研究、日本研究をそれぞれ行うことが決まっているし、留学生の交換も実施している。現に日本にくる飛行機の中で、日本の運輸省に研究生として派遣されるカナダ人に会ったし、日本からもカナダの開発したカンドゥー型原子炉の研究に人を派遣している。また

文化面だが、両国とも芸術家、音楽家、バレエ・ダンサーなどを積極的に送り込み、交流を深めていくことが大切で、あらゆる分野で日本とカナダの関係をより深いものになりたい」

多角的日加関係の発展はまだその緒についたばかりである。しかし、着々とくつかのレールはすでに敷かれてきており、今後の進展が期待される。三月には国会議員有志の間で日加議員連盟が結成され、四月にはカナダから議員団が訪日を予定するなど、日加間の交流は一段と広がり、そして深まりそうだ。

ランキン大使は一九一八年三月十八日生まれで、今年五八才。アルバート大学を卒業後（一九四一年）、海軍予備隊に入隊。一九四五年通商産業省に入り、シドニー、ボンベイ、マドリッド、上海の各地で副商務官、シドニー、ボンベイ、マドリッドで商務官、ベルン（スイス）で商務担当参事官、ニューヨークで副総領事を勤めた。六四年から七〇年まで駐ベネズエラ大使（兼ドミニカ共和国大使）、七〇年から昨年十二月、駐日大使に任命されるまでニューヨーク総領事の職にあった。また、国連で経済社会理事会のカナダ代表を二年間勤めたほか、七年間国連総会経済財政委員会のメンバー（一九七二年には委員長）であった。

日本にはモナ夫人の同伴で赴任した。娘が三人いて、すべて外国生まれ。二人はすでに結婚、三番目はモントリオール大学の物理療法を勉強している。



信任状奏呈のため2頭だての馬車で皇居へ向かうランキン大使。大使一行（大使のほか、ドーソン公使、ゴースラム公使、モードン参事官、ウィンフィールド参事官、ホワイトレー大佐、ラボワー等書記官）は、午後2時20分、宮内庁差し向けの馬車3台に分乗してパレス・ホテルを出発、坂下門交差点を通過して皇居に到着、湯川式部長のお迎えを受けた。一行は「千草の間」で待機したあと、午後3時、正殿「松の間」で陛下に信任状を奏呈、馬車列でホテルへ帰館した。奏呈式には、日本側から、松沢内閣大臣（行政管理庁長官）、安井式部官らが同席した。

カナダの歴史

カナダにいつから人が住んでいたかは明らかでない。ただ、現在のユーコン準州の北部には、二万五千ないし三万年前に人が住んでいた形跡があり、北アメリカではこれが最も古い。これらの古代人は、アジア大陸からシベリアへ達し、当時アジアと北アメリカを結んでいた大平野を横切り、アラスカの内部を通過して、カナダのほとんどをおおっていた最後の氷河期に、地肌を見せていたユーコン一帯へ向かったと思われる。彼らは氷河の間をぬってさらに南下したかも知れないが、押し寄せる氷河によってそのあとかたはかき消されてしまった。しかし、氷が解けたすと、クロービスと集合的に呼ばれるこのアジア系集団は、マンモスや馬、野牛、とないなどを追って、北アメリカ全域へと急速に広がっていった。クロービス文化は、大陸東部でブラノと総称されるいくつかの地域文化に分かれ、西部でアーケイックと呼ばれるいくつかの文化に派生していった。これが、カナダの、いわば先史時代である。

ヨーロッパ人がカナダにやってきたのは、それから何千年もあとである。北欧伝説によると、九世紀にバイキングが今のアイスランドとグリーンランドを植民地化し、さらに南と西へ探検の足をのばした。その後、九八六年頃になって、赤ら顔の「エリック」と呼ばれる男がグリーンランドに基地をつくり、その息子「強運のレイフ」が一〇二〇年頃、ニューファウンドランドの北端に植民地を建設したといわれる。コロンブスが西インド諸島を発見する五百年も前のことである。バイキングだけでなく、彼らに続いてそのほかのヨーロッパ人や漁夫がカナダに達したことは容易に推測されるが、確

かな記録はない。ジャック・カルチエーは、一五三四年の処女航海の際、ニューファウンドランドとラブラドルの間にあるベル・アイル海峡の沿岸で、フランスのラ・ロッシェルからやってきた船を発見、帰りのコースにつかせることがあった。ジョン・カボットがイギリス国王の命をうけて上陸したのはニューファウンドだったのか、あるいはノバ・スコシアだったのか、はっきりしない。ただ、カルチエーの航海と同様、カボットの目的も金銀珠玉の地を発見することにあつたことは明白である。しかし、カボットが発見したのは、当時のイギリスやフランスの漁民の間ではすでに知られていたグランド・バンクスの豊富な魚群だけで、それ以外に見るべきものはなかつた。カルチエーは、インディアント、セント・ローレンス河流域と、カナダ・グアイヤモンド（あとで石英とわかつた）を発見した。

カナダの近代史は、こうしていわば新大陸の富を求めて始まつたわけである。この富の追求というのには、カナダの近代史を特徴づけるもので、スペインやポルトガルの探検家や、カボット、カルチエー、あるいはカナダに「ニ

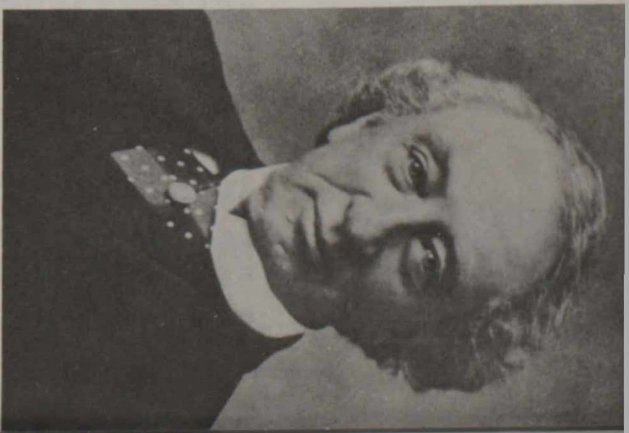
ュー・フランス」を建設し、カナダ建国の父と呼ばれるサミュエル・ド・シャンプランにしても、新大陸の富が探検、開拓の強力な動機となつてきたことは間違いない。その意味で、ビーバーの毛皮が果たした役割は大きい。ビーバーの毛皮は柔かくて、十七世紀のフランスにおけるフェルト加工に適していて、ビーバー帽は当時のヨーロッパで大流行。そのため、フランスの毛皮取引人や狩猟家は、新大陸の奥深く——ハドソン湾、ミシシッピ川、カナダ大平原——へと進み、十九世紀初めには、サイモン・フレイザーがついに太平洋側のプリテンシユ・コロンビアに毛皮取引所を建てるに至るのである。毛皮取引は、カナダ開発の原動力であつた、といえよう。



サミュエル・ド・シャンプラン

この毛皮取引に興味を示したのは、もちろんフランス人ばかりではなかつた。現在のニューヨーク周辺に植民していたオランダ人や、一六六四年に同植民地がイギリスの手に渡つてからは、イギリス人がフランス人と毛皮取引でしのぎをけつた。イギリスが「ハドソン湾会社」を創立して、積極的に毛皮取引（および新大陸開発）に乗出したのは一六七〇年のこ

とである。カルチエーの探検によってセント・ローレンス河一帯を発見し、シャンプランによって現在のケベック州に植民地を建設したフランスからは、その後も移住者が相次いで、植民地の数も増え（大西洋沿岸、ケベック、トロア・リビエール、モントリオールなど）、フランスは北はハドソン湾から南はニューオーリンズまで、東はニューファウンドランドから西はウイニペック湖まで制する大勢力に発展した。一方、すでにアメリカに十三植民地を確立し、立派な政治・社会を築いていたイギリスは、ハドソン湾会社を通じてカナダの北部や西岸一帯を支配しており、両者は激しく抗争していた。しかし、結局、一七五九年にケベック市が、翌年モントリオールが落ちた。「七年戦争」（植民地争奪戦）で敗北したフランスは、一七六三年のパリ講和条約によって「ニュー・フランス」を手離すことになる。そしてイギリスは、カナダの支配権を完全に掌握したわけである。こうして支配権の問題は片付いたものの、もともと言語や習慣を異にする約六万のフランス系の人々が英国領北アメリカに残ることになった。英国は一七七四年に「ケベック法」を定め、フランス系カナダ人のこれまでの諸制度や言語、宗教、文化を継続させるなど、理解ある態度でのぞんだ。しかし、ケベック州に英国系アメリカ人やスコットランド人などがやってきて毛皮取引を手に入れたり、アメリカ独立戦争（一七七五—一七八三）の突発で農民や母国イギリスに忠誠な「王党派」（あるいは忠誠派）の人たちがカナダに流入してきたりしたため、フランス系住民とイギリス系住民との間にいる



カナダ連邦生みの親
ジョン・A・マクドナルド

いろなあつれ

きが生じた。

こうした問題

は、一七九一

年、旧ケック

クを、オタワ

河を境として、

それぞれ立法、

司法組織をも

つたイギリス系の「上部カナダ」とフラ

ンス系の「下部カナダ」に区分すること

で、ある程度解決された。このときの「上

部カナダ」（現在のオンタリオ）「下部カ

ナダ（ケベック）、ニュー・フランスウイ

ック、ノバ・スコシアの四植民地が、い

わばカナダのその後の経済的、文化的、

政治的發展の基盤になる。その頃、カナ

ダ西部はすでにジェームス・クックが発

見し（一七七六年）、ジョージ・バンク

ーバーやアレクサンダー・マッケンジー、

サイモン・フレイザー、デイビッド・ト

ンフロンらが調査・探検をし、毛皮交易

所を建てていた。

そのあと、カナダを主戦場とした米英

戦争（一八二二年）、米国との国境協定

（一八一八年）、さらに下部カナダでの

反乱（一八三七年）をへて、一八四一年、

上下カナダが合併されてアロヒンス、

オア・カナダに統一され、責任政府が結

成された。ノバ・スコシアにも責任政府

が許され、一八五五年までには他の三種

民地——ニューファンドランド、プリ

ンス・エドワード島、ニュー・フランス

ウィック——にも責任政府が設立された。

（ハドソン湾会社が「王領植民地」とし

てバンクーバー島の開発を認められたの

は一八四九年。バンクーバー島を含むロ

ッキー以西がブリティッシュ・コロンビ

ア州になつたのが一八六六年）。

そして、アメリカの南北戦争（一八六

一年）やメキシコの独立運動、イギリス

での北アメリカに対する反植民地ムード、

アロヒンス・オア・カナダ内における東

西間の対立などを契機として、全カナダ

統一への気運が高まってきた。そこで、

一八六四年、アロヒンス・オア・カナダ

と大西洋岸三種植民地の代表がアヒンス、

エドワード島の首都シャーロットタウン

に参集、アロヒンス・オア・カナダ側が

提案した英領北アメリカの連邦政府構想

へと大きく歩を進めた。そして一八六七

年の初め、英国議会は「英領北アメリカ

条例」を採択、同年七月一日同条例が英

王室会議によって発布されることにな

り、ここにアロヒンス・オア・カナダ、

ニュー・フランスウイック、ノバ・スコ

シアが合体することになった。同条例に

よつて、今後アヒンス・エドワード島、

ニューファンドランド、ハドソン湾会

社の北西領、および植民地ブリティッシ

ュ・コロンビアを加えることになったは

か、アロヒンス・オア・カナダがオンタリ

オとケベックの二州に分けられ、オタワ

に中央政府が設立された。こうして、イ

ギリス国王の主権の下に、ドミニオン・

オア・カナダと呼ばれる自治領カナダが

発足した。

新生カナダの初代首相には、カナダ統

一を推進してきた「カナダ連邦主義の親、

ジョン・マクドナルド（保守党党首）が

選ばれ、カナダの国作りが始められるこ

とになった。まず手掛けられたのが、カ

ナダを政治的、経済的、物理的に統合す

る大陸横断鉄道で、まずハリファックス

一ケベック間が完成し、間もなく（一八

八五年）ノース・ベイ（オンタリオ州）

バンクーバー間の鉄道も開通した。大

陸横断鉄道が、西部の開発とカナダ全体

の産業の発達に果たした役割は計り知れ

ない。その後、フランス系のウイルフレ

ッド・ロリエ首相の自由党政権下（一

八九六―一九一一）で、カナダの発展期

が始まった。すでに産業革命が国土を席

巻していた。外国からの移民が増増しカ

ナダの人口は一九〇一年から十年間に、

五四〇万から七二〇万人にふえた）、そ

れによって小麦の産出高も一九〇一年の

五千六百万アッシュェルから一九一二年に

は二億三千万アッシュェルに飛躍した。

また、ユコンでは砂金が発見され、「ゴ

ールド・ラッシュ」騒ぎが起こつた。

世界はやがて第一次大戦に突入。カナ

ダは母国イギリスと共に参戦し、大戦が

終結するとベルサイユ条約に署名するほ

か、国際連盟にも加盟し、他の自治領と

ともに独立国として国際社会に仲間入り

することになる。以後、

世界的不況、「英連邦」を

発足させ、各自治領を英

国と同等の完全な「主権

国家」として認めた「ク

エストミンスタール条例」

（一九三一年）、第二次世

界大戦への参戦と戦後の

経済チーム（国民総生産

ドルから一九五六年には

三百十億ドル、一九六六

年には六十億ドルへと

驚異的に伸びた）などを

へて、今日に至る。その

間、カナダは国際連合の

創立に参画し、国連その

他の平和維持活動に協力

採択した。

広大な国土と多様な民族。こうした連

邦国がこれだけ存続できたのは、それだ

けで偉業と言えるかも知れない。カナダ

は国家の統一を守り、そしてカナダとそ

れほど違わない面積をもちながら十倍の

人口と国力を備えた隣国アメリカから真

の独立を維持するのには、多大な努力をし

てきた。一九六七年のカナダ連邦結成百

年祭とそれを記念したモントリオール博

覧会では、こうした努力の成果を世界中の

人々にみせた。カナダは、今、新しい百

年を着々と築いている。



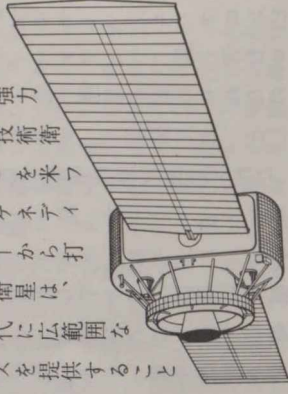
連邦結成が語られたプリンス・エドワード島
シャーロットタウンにある州庁内の「ジョン・マクドナルド」

カナダ、強力な通信技術衛星を打上げ

カナダは、一月十七日、世界で最も強力な実験通信技術衛星（CTS）を米フロリダ州のケネディ宇宙センターから打上げた。同衛星は、一九八〇年代に広範囲な通信サービスを提供することが期待されている新世代の高性能軌道送信技術の最先端を行くもので、強力な放送用真空管を搭載した本体と、太陽エネルギーを受けて送信器を作動する電気に変える（太陽電池）、二枚の長くて軽い羽根状翼からなっている。

カナダが官民協力のもとで、五年以上の歳月と六千万ドルの経費をかけて開発したこの通信技術衛星は、南米の赤道上空約三万五千メートルのところで静止し、カナダと米国の諸グループが一連の社会的、技術的、科学的実験に利用することになる。（同衛星は、一九六二年に行われた科学宇宙衛星「アルエット一号」の打上げ以来続いている、米加宇宙平和利用協力計画の一環として打上げられたもので、設計、製作をカナダが担当し、米國が強力送信管を用意したほか、打上げ前のテストおよび打上げを行った。カナダ側の担当当局は通信省通信研究センター（CRC）、米側は連邦航空宇宙局（NASA）とレイス研究センター）。

衛星は米加双方の実験グループが一日交代で使用することになっているが、カナダ側では同衛星とRCA社（モントリオール）およびSEEDシステムズ社（サスカトワン）が開発した小型低価の高性能地上局を利用して、五月から二年間



にわたり、二六の実験を行う。実験は、放送技術、テレメデーション（テレビなどを利用した遠隔通信医療）、大学間授業共用、遠隔通信教育、村落間の相互連絡、データ通信、政府行政連絡、電波伝達、小型地上局の操作、機能評価など、多岐にわたる。そのうちのいくつかを上げてみよう。

◎都市環境における放送受信実験 二メートル・アンテナと商業用受信器を使って、十二ギガヘルツ（一ギガヘルツは一〇〇〇メガヘルツ）の衛星テレビ・シグナルを受信するほか、日本などで開発された家庭用テレビ受信器を使って、衛星から家庭への直接テレビ送信を試みる。

◎ラジオ放送への応用実験 小村向けまたは小村間のラジオ放送や、各放送局への特別番組の提供の可能性を探る。

◎テレビ実験放送 オリンピックの馬術競走をケベック州アロモントからモントリオールへ送信して、CTSによる遠距離放送あるいは大きな人口集中地域からの送信、受信の適性を見るほか、小型移動式地上局の運用をテストする。

◎遠隔医療実験 CTSを使って、遠隔地の医者や保健関係者に対して医学再訓練を行う一方、地域医療教育および遠隔地からの心電図やX線の送信を試みる。

また、CTSと各所に設置されたいろいろな規模の地上局を通して、北方地域の医療施設に各種の視聴覚データを送信し、診断や臨床に役立てる実験を行う。

その他いろいろあるが、CTS打上げの主要な目的は、何といたっても十二ギガヘルツで小型、安価の移動式地上局に対する強力テレビ伝達の可能性を実験することにある。今日の通信衛星は、強力な

受信能力を備えた、比較的大型で高価な地上局を必要とする。同じ周波数（四一六ギガヘルツ）を使用する地上マイクロウェーブ・システムとの混信を防ぐため、衛星からの信号を弱くしているからである。しかし、CTSの場合は、それよりもっと高い周波数を使うため、強力な衛星、小型の地上局でも支障はない。この高周波は、際限なく強力にできる。CTSが明日の直接放送用衛星の先駆といわれるゆえんである。

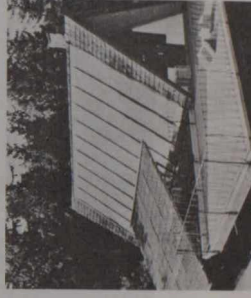
因みに、CTSの地上局が使うアンテナは、小さいのでわずか直径三二インチ（約八二センチ）、大きいのは七フットから十フット（二・一一二メートル）くらいだが、カラーTV、FMラジオ、音声伝達、データ伝達など、広範囲な通信目的に利用できる（利用目的によって端末器のサイズが決まる）。

地上局が小型になれば、より安く、より多くの地上局が作れ、より多くの地域でより多くの人々が遠隔地でのテレビ受信、相互伝達教育テレビ、遠隔医療など、宇宙衛星による各種の通信伝達が可能になる。その意味で、CTSは今後の衛星通信にとってきわめて重要な試み、といえよう。



太陽熱だけで暖房 トロントに実験ハウス

カナダでは初めての、暖房に太陽熱のみを利用した家（ソラー・ホーム）が、このほどオンタリオ州トロントの北に完成した。延べ面積二六五・五平米（約八



〇坪）、二階建てのこの家は、トロント大学フランク・フーパー教授の設計によるもので、太陽熱だけで一戸建ての家が必要とする熱を年中すべて供給できるかどうか、また経済性はどうか、を実験するのが目的。

太陽熱は、まず急勾配の屋根（約七〇平米）にのせた二重ガラス張りアルミ板で集め、アルミ板の中の水管を通して温められた水によって熱絶縁蓄熱水タンク（容積二万七千リットル＝大型水泳プールの約三倍）に導かれる。この温水の熱は熱交換器によって温風に変えられ、建物内に送り込まれる仕掛けになっている。水と空気の循環には、小型風力タービンで発電力が用いられる。

この方法だと、一日にわずか八〇時間しか日射しないトロント一帯でも、日射時間の長い夏（七月で二百時間以上）の間に蓄熱して、秋のはじめにはタンクの水を摂氏七一度まで上げることができる。冬には多量の熱が使われるため、タンクの水は三月末までに三八度ぐらいに下がるが、それでも暖房にはじゅうぶん。熱収集の面積や蓄熱タンクの面積を広げ、屋根の勾配をもっと高くすれば、トロントより寒冷地でも利用できるという。

蓄熱タンク二基を利用して、暖房の七割を太陽熱で供給する。フリディッシュ・ユ・コロンビア州にあるソラー・ホーム。

トルドー首相、中南米三国を訪問

政治、経済、文化関係の増進を合意

トルドー首相は、一月二三日から二月二日にかけて、メキシコ、キューバ、ベネズエラを公式訪問した。カナダの首相が中南米を訪問するのは、一九六〇年にデューフェンベーカー首相がメキシコを訪れて以来初めて。

カナダは、一九七〇年における外交政策の全面的再検討以来、ラテン・アメリカとの関係を増進、拡大してきた。そして中南米の中でも、トルドー首相が訪問した三国は、カナダの対中南米輸出（昨年は十二億六千ドル）の約半分、対中南米輸入（十八億三千万ドル）の八割を占め、カナダと議員を交流し、またカナダの対中南米旅行者二十五万人（一九七五年）のうち、二十万人がメキシコ、四万人がキューバ向けだったように、カナダとは特に密接な関係にある。

トルドー首相訪問の主な目的は、カナダとこれら三国との経済的、政治的、文化的結びつきを一段と強化するとともに、カナダの多角化外交を推進し、かつ米州諸機構の今後のあり方を討議し、さらに海洋法や核拡散防止、南北経済問題、環境、エネルギーなどの諸問題を検討することにあつた。

首相は、まずメキシコを訪問、エチエベリア大統領と二日間にわたって会談した。その中で、両首脳は、メキシコが同国の原子力開発にカナダが開発したカンドウ型原子炉を利用する可能性を検討し、電力産業の開

発における協力を話合うため、閣僚レベルの使節団を数日内にカナダに派遣すること、および新航空協定の交渉を継続することなどについて合意したほか、メキシコにおけるツーバイフォー工法の応用などについて討議した。

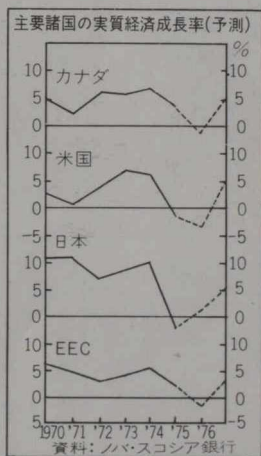
このあとトルドー首相はキューバでカストロ首相と会談、経済、貿易関係や産業協定の増進（一九七二年以来、カナダの対キューバ輸出は三倍、輸入は七倍増加した）、開発援助の重要性、保健やスポーツの分野における交流・協力の推進、世界平和の重要性、海洋法による海洋・海底資源の開発制限などについて合意した。この中で、トルドー首相はカストロ首相をカナダに招待、カストロ首相はこれを受入れた。

キューバに続くベネズエラ訪問では、トルドー首相はベレス大統領と地域経済協力や秩序ある海洋開発などについて合意したほか、特に二国間経済関係を緊密化する可能性について話合った。両首脳は、現在の協力体制を強化するとともに、交通、穀物、鉱業、林業、エネルギーなどにも協力関係を拡大する可能性があるとし、また経済協力協定の締結について早期に話し合いに入る必要性を認めた。ベネズエラは、カナダに対する最大の石油供給国であるが、トルドー首相とベレス大統領は両国の石油開発技術に関する協力について討議したほか、それぞれの国営石油会社（ペトロ・ベネズエラ、ペトロ・カナダ）の協力の可能性についても話合った。

カナダ経済、回復基調へ 今年のGNP成長は 四、五%か

カナダの経済は、オイル・ショックと世界的な不況の余波を受けて、一九七四年の初めから五期連続して景気が後退したが、昨年の第二・四半期（四―六月）に〇・五パーセントの修正済みの実質成長率を達成して以来、着実に回復気運に乗ってきたようである。

マクドナルド大蔵大臣がこのほど明らかにした政府予測では、今年の国民総生産（GNP）の伸びは四・五パーセントないし五・五パーセント（去年の実質成長率はマイナス〇・三パーセント）。民間でも、モントリオール銀行が六・二五パーセント、ロイヤル・バンク・オブ・カナダが五パーセント、ノバ・スコシア銀行も五パーセント、トロント・ドミニオン銀行が五・八パーセントと、軒並みに景気浮上を確実視している。



一方、昨年一一パーセント近くを記録したインフレは、漸次落ち着く微候を見せられており、マクドナルド蔵相は昨年十月に発表されたインフレ対策が功を奏し、またエネルギーおよび物品の国際価格の上昇率が期待通り純化すれば、国内の物価上昇も八パーセントまたはそれ以下になるものと予測している。（民間では、トロント・ドミニオン銀行が消費者物価指数で九・七パーセント、モントリオール銀行が九パーセント、ノバ・スコシア

銀行が総合物価指数で八・五パーセントの騰勢を見込んでいる。これは、各州における物価凍結の解除、各種市税の引上げ、エネルギー価格の上昇、昨年的大幅賃上げなど、物価騰貴要因が依然として根強いためである。

景気回復によって雇用ものびようが、求職者も増加するため、雇用情勢はあまり回復せず、失業率は昨年の七・二パーセントからそれほど改善されることは、当分期待できない。

政府や民間有力銀行が五・六パーセントの実質成長率を予測する背景には、次の要因が上げられよう。すなわち、米国をはじめとする先進工業諸国の景気が回復基調に転じてきたため、輸出の伸びが見込まれ（ノバ・スコシア銀行の予測では、価格ベースで九・五パーセント）、これによって貿易収支の赤字幅が昨年の十一億ドルから四億

ドルへ（同銀行）、また経常収支の赤字が約十億ドル（トロント・ドミニオン銀行）も縮小するとみられていること。また、国内的には、消費者物価の上昇率が純化するとの期待感によって、個人消費の復調・拡大（ノバ・スコシア銀行の予測では五・五パーセント）が見込まれ、設備投資も増勢に転ずることが予想されていることなどである。

カナダの今後の問題は、国民のふくれる期待感と、エネルギー供給の減少やインフレなどの問題をいかに調和させ、安定成長を達成していかにある、といえる。



トルドー首相

カナダと私(1)

紫沼喜久子

一九六七年、私は半年前に赴任した夫を追って、三人の娘をつれてバンクーバーに飛び立った。それは私にとって初の大旅行だった。「カナダ」という名はおそらくヒューロン語(インディアン語の一つ)の「カナタ」から来たのだろうと言われてる、と聞いたのはかなり後であるが、その頃の私にとってカナダはただただ遠い、かなたの国であった。それから七年近く、私は一主婦としてカナダで暮らすことになった。

X X X

カナダに着いて四、五日して、子供たちがようやく時差の調整ができたところで、近くの公立小学校へ行った。長女は日本ですでに一年生を終えていたが、校長先生の勧めで、今学年が終る夏までもう一度一年生のクラスに入れてもらうことになった。英語の力さえつければ、年令相応の学年にスキップさせてくれるという。実際、二年半後にはそうなった。次女はその付属幼稚園に行くことに決まった。

急に雨が降り出した日のことである。

傘を持って迎えに行った私は、幼稚園の玄関で先生のミス・ブレオーに会った。「ちょうどよかった。ちょっと教室に来ませんか」とおっしゃる。美しい銀髪、いかにも経験豊かな目をした先生は、毎朝うちの子に名前と住所をたずね、言わせてみていること、そして昨日から「サンキュー」という言葉を教え始めていること等を、手短かに話された。

帰りに廊下の扉の所まで来た時、たま

たま一人の男の子が通りかかった。彼は先生の姿が目に入るとつかつかと扉を走り寄り、満身の力をこめてその重い扉を開けてくれたのだ。それははいじらしいというよりはむしろ、いつかはナイトたるべく躰けられている幼ない紳士という感じであった。先生は急ぎもせず、悠々と「ありがとう、〇〇君」と言いつつ通り、彼の口から「ユー・アー・ウェルカム——どう致しまして」という言葉がもれると、待っていましたというようににっこりほほえみ返された。



小学校の授業風景

こういう社会訓練が幼稚園に課せられている大切なレッスンだったのである。

カナダの生活に落ち着けば落ち着くほど、他人はもとより、親子、夫婦、兄弟の間でさえもこの短い挨拶の言葉が皆の生活と心の中にしみとおっている事に気がついた。あまり理屈つばく考えるとカナダ人に笑われるかもしれないが、ここまで根づいているこういう挨拶、というよりそのスピリットはある時忽然と流行り出したものではなく、相手を尊重し合う長

い歴史の中から生れた、もっと深い人間関係であるにちがいない。

X X X

昨日と同じように、朝食を終えて十分もすると、隣のキムは長女を誘いに、そのもう一軒隣のコーリンは次女を誘いに寄せてくれた。本当にありがたい。おかげで登校拒否というようなことで困らないですんでいる。

学校から帰ってきた長女が言うのに、「皆ね、おやつに生の人参なんて持っているのよ、ママ。セロリの人もいるけど、私も明日人参持っていこうと。いいでしょ?」「ええ、なまのを?」私達二人に下の子も加わって、台所で親子四人、たて割りにした人参をうさぎよろしく噛つてみる。思ったより甘い。青くさくもない。でもやっぱり生まは生までないめない。娘もかじってみて「わたしはやっぱりんごでいいわ」と言つて外に出て行った。

小学校は低学年といえども、授業は午後もある。授業は日本のように四五分というような小さきみでなく、午前の間に一回ゆっくり中休みのあるほかはぶつ通し続く。その間は先生のやり方にまかされておられるらしい。その休み時間のために軽いおやつを持って行くことが許されている。(日本に比べて遙かに子供達の歯の健康に留意されていて、甘いものを制限し、果物や生野菜をすすめている。)

お昼時になると、子供達が飛ぶようにして家へ帰っていくのが窓から見える。昼食は家に帰って食べる事に原則としてきめられているからだ。これは、昔、昼にデイナーをとった家の多かった時代の名残りであるか、あるいは気分転換を含めた昼休みなのか、おそらくその両方であろう。

世界最初の砕氷貨物船

一九七八年に完成の予定

カナダは、世界最初の本格的な大型砕氷貨物船を建設することになった。二万八千トンのバラ積み船で、完成・就航は一九七八年の予定。建設費は三千九百万ドル。

同船は、完成すると「アークティック号」と命名され、二つの鉛・亜鉛鉱を開発中の北極海で運航することになる。また、将来北極海からカナダ南部に天然ガスや石油を運搬するのに必要なより大きな砕氷貨物船のプロトタイプともなる。運航は、政府が経営参加、資本協力するカナダの海運業者が当る。

人事往来

○レナード・コーエン(カナダのシンガー・ソングライター、詩人、小説家)、昨年十二月、米国で私淑している禪の師匠と京都へ。

○サンダーベイ・ツインス・アイスホッケー・チーム、日本各地で試合(二月)。

○経済企画庁を中心とする、欧米各国の需要管理政策の管理および経済見通しの作製状況視察団、カナダへ(三月)。

本紙は、カナダ大使館から二カ月に一回発行されます。本紙掲載内容の転用、転載は自由ですが、その際は出典を明らかにして下さい。なお、ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。

東京都港区赤坂七丁目三番三八号

カナダ大使館広報部